



外務省・新日系人招へい事業

～アメリカからの便り～

IFA は、平成 20 年度、2009 年 3 月より毎年、外務省北米一課が主管する、米国「新日系人招へいプログラム」を企画入札により実施している。コロナウイルスの世界的な蔓延により、2020 年と 2021 年は中止になっているが、今般、2012 年、2016 年のプログラム参加者より近況が届いたので紹介する。

エリザベス・ダウズ・クラタ (コロラド州) 2012 年参加



来日時、ホストファミリーと(中央)

カリフォルニア大学パークレー校を

卒業してから 5 年が経ちました。卒業後、様々な経験を積んできました。「the Daily California」という学生新聞他、ニューヨークでの雑誌記者、ワシントン D.C.にある、日系アメリカ人市民連盟での Civil rights fellow (人権研究員)、地球規模の核軍縮を行う組織の立ち上げなどを行っています。

日本との関わりでは、2016 年に大学卒業後、JET プログラム(語学指導等を行う海外青年招致事業)で長崎県大村市に 1 年間滞在し、高校で英語を教えました。この JET での 1 年は、日米間の相互理解や友好的関係を深めるための行動を実行する期間でもありました。

2017 年の 12 月には、日本の外務省が実施する、対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」の日系アメリカ人市民連盟プログラムに同行し、200 人の日系アメリカ人とともに再来日しました。

現在は、小さな制作会社でプロデューサーとして働いています。仕事の大部分は、反アジアへのヘイトワーク(差別的憎悪行動)への問題提起に焦点を当てています。

カレオ・ヨネイチ・チャン (ワシントン州) 2016 年参加

現在、Stryker Corporation(多国籍医療技術企業)で、Buyer/Planner(商品買付や企画)の仕事をしています。今もワシントンに住んでいます。



Kaleo Yoneichi Chan

University of Washington, Kyushu University
Department of Asian Languages & Literatures, Major: Japanese Linguistics

2021 年の 3 月に、福岡で開催されたオンラインのキャンプでボランティアをする機会がありました。このキャンプは「福岡未来創造キャンプ」といい、2019 年に 1 年間、九州大学に留学していたときに初めてボランティアで参加しました。キャンプには国際情勢や英語に興味のある高校生が集まり、社会的課題を解決するために活動します。参加者は、日本や世界中の大学生・卒業生のボランティアと交流し、議論やワークショップをしたり、レクリエーションをしたりします。

近い将来、また、日本を訪問したいと思っています。IFA が新日系人招へいプログラムの記事を書き続けていることは嬉しいです。

(前回報告記事: 2020 年 7 月号参照)
(日本語訳: 編集)

世界万華鏡

“中国便り” その 2 東京大学医科学研究所 特任教授 ^{はやし} 林 ^{みつえ} 光江

5 月 14 日夜、娘より北京大学所属学部からの通知が転送されてきた。「緊急通知を受け、現在、安徽省六安市、肥西县、遼寧省営口市およびそれに関連する高リスク地域の状況を調査している。もし本人または共同生活者が 4 月 30 日以降(14 日間以内に)上述地域を訪れたか、関連症例との濃厚接触がある場合、明日(5 月 15 日土曜日)午前 8 時までに留学生事務室担当者や学部学生担当者に連絡すること。」

◇

本土感染が出たのだろうかと思ひ、国家衛生健康委員会の HP を確認すると、5 月 13 日に安徽省で新型コロナウイルス感染症確定症例 2 件が報告された、とある(5 月 14 日発表)。中国でも 5 月 1 日から 7 日まで労働節(メーデー)の連休で、中国国内を移動した人は通常より多かったことと思う。同大学は 5 月 1 日のみが休みで、1 日以外は通常通り授業が行われたが、中には帰省や旅行をした学生もいると考え、上記通知を出したものと思われる。

5 月 14 日以降も安徽省で確定症例や無症状感染者(注:中国では無症状の場合、症例数には含まない)が相次いで確認され、また安徽省から直線で

1,200km ほど離れた遼寧省でも確定症例が報告され始めた。安徽省で確認されたある感染者は、北京を経由して遼寧省営口市に行き、滞在中に発熱と喉の痛みを感じて現地の診療所を受診し、4 日間にわたって点滴を受けた後、安徽省に戻った。その後、遼寧省滞在時の接触者が感染したことが判明した。

公開されている感染者のデータを見て興味を引かれたのが、今回感染者の多くが写真館に勤務する者や、写真館で撮影をした客だったことだ。安徽省でも遼寧省でも、4 月末から 5 月初めにかけて撮影技術研修会や交流会が行われており、その参加者の間でも感染が広がったようなのだ。

もともと中国では写真館での記念撮影を好む人が多い。旧正月や祖父母の誕生日に親族一同が集まって撮る家族写真、子供の誕生日に様々な衣装を着せて成長を記録する写真。中国古代の衣装を揃え好みの衣装を着付けて撮ってくれる写真館もある。おそらく最も人気があるのは戸外で撮影する結婚記念写真で、風光明媚な観光地では撮影隊を引き連れた新婚カップルを見かける。中国の写真館は日本と比べて敷居が低く、より身近なもののように思う。

閑話休題。感染者の報告に続いて、安徽省や遼寧省では地方政府の衛生管理に携わる役人が更迭されたり処罰されたりするなどのニュースが報じられた。本人が感染したわけでも感染を広げたわけでもないのだが、管轄地域内で感染者が出たことで監督責任を問われ処分されたのだ。また患者を診察した医療機関に対しても初期対応の不備を理由に営業許可を取り消すなどの処分が下された。このようにして中国では医療機関にも監督部門にも常に緊張感を与え続けているようだ。

今年 1 月に実施された WHO と中国による合同調査「報告書」の中に「…感染を発見し、隔離し、濃厚接触者を追跡・隔離すること、そして、国民の多くがこれらの措置を理解し、受け入れることが必須である」との文言がある。中国はまさにこれを継続実施しているのだ。(アジア感染症研究拠点『北京駐在スタッフの随想』より抜粋)

令和 3 年 7 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: ダイト印刷株式会社



外務省・新日系人招へい事業

～アメリカからの便り～

IFAは、平成20年度、2009年3月より毎年、外務省北米一課が主管する、米国「新日系人招へいプログラム」を企画入札により実施している。今般、2017年6月～7月にかけて実施の第9回プログラム参加者より近況が届いたので、プログラム参加の1年後に届いた便りと併せて紹介する。

(関連記事：本紙2020年7、8月号)

カミール エリース アケミ・ゲー
ワシントン州／2017年参加

2018年9月

秋になってきて、これからだんだん寒くなります。紅葉は美しいので、楽しみにしています。

今、タコマのピュージェット・サウンド大学に通っています。2年生ですが、日本語の授業は大学4年生のレベルに入っています。日本語と日本の文化を専攻していて、大学の卒業の後は、外国語青年招致事業をしてみたいです。

薬理学の勉強もしたいです。たくさんクラブに入っています。バーシティ・ソフトボールとアルティメットをするのが好きでキリスト教のクラブに入っています。忙しいけれど楽しいです。

大学で日本と関係あることをなるべく試してみています。去年、UPS大学で新しい桜を植えることを手伝いました。私たち5人の日系人の学生は第二次世界大戦中に抑留された日系アメリカ人の遺産を記憶するために桜を植えることを手伝いました。大事なことで、手伝いすることが嬉しかったです。大学は難しいですが、新しい冒険がいつも楽しいです。(本人手記)



訪日研修時、新幹線で駅弁。右側が本人

2020年10月

私は今、ワシントン州タコマのピュージェット・サウンド大学の4年生です。日本語・日本文化の文学士号と、分子細胞生物学の学士号を取得するべく頑張っています。2017年のプログラム参加後、日本を訪問することができてい

ませんが、来年の夏には大学の教授と一緒に日本でリサーチする機会があればいいなと思っています。「食文化」という今年のテーマに沿って、地元の農業資源の調達、ごみゼロのコミュニティ、地域での責任の共有といったことを通して日本の環境維持の過程を調査したいです。今、JETプログラム(Japan Exchange and Teaching Program: 語学指導等を行う外国青年招致事業)に応募しています。日本とアメリカの相互理解を深めるような関係構築をさらに追求したいです。

大学では、アメリカ国内において、抑留中の日系人に対して残虐行為が行われたことを知ってもらうように活動している“Center for Intercultural and Civic Engagement”や“Tsuru for Solidarity”といった地元の団体で、自己発見と「修復的司法」の難しさを引き続き感じています。また、折り紙で鶴を折ることや、毎年行われている学内での日本関連記念式典に参加しています。日本の言語・文化を専攻することは、私にとって、自分自身への知識を広げる授業を選択できるという新しい道を開いてくれました。歴史を通して日本の文化や社会が形作られたことを知るための重要な文献を分析することもできるようになりました。

今年、日本語能力試験のN3レベルに合格し、とても嬉しかったです。近い将来、リサーチかJETプログラムかで、日本を再訪する機会ができるようにと願っています。(日本語訳：編集)

世界万華鏡

日露経済交流のはじまりと今(その1)

日露経済交流コンサルタント 朝妻 幸雄

●日露交流のはじまり

1853年(嘉永6年)、ロシア帝国のプチャーチン提督がフリゲート旗艦(帆船)パルラダ号で長崎に入港したのは、米国・ペリー提督の浦賀来航から1ヵ月半後でした。ニコライ二世の命を受けて日本に開港を求めのために来訪したプチャーチン提督ですが、交渉は難航します。一旦帰国し、その半年後に再度、今度はディアナ号で下田港にやって来ました。

ところが1854年、11月4日の朝、大地震が起こり(安政の大地震)下田沖に係留していたディアナ号は大津波に飲み込まれ、多大なダメージを受けてしまいました。修理のためにえい航中、さらに嵐に遭遇してついに沈没。

乗員約500人は日本の漁民たちにより全員救助され戸田という漁村に収容されました。その間にもプチャーチン提督と日本政府(江戸幕府)との交渉は続けられ、同年、12月ようやく日露和親条約が締結されたのです。これが日本とロシアの正式な交流の始まりです。その後、両国間には日露戦争をはじめ、厳しい対決の試練が度重なっていきます。

●その後の両国

巨大な白熊に例えられるロシアは、良くも悪くも西側を向いてきました。ピョートル大帝が1703年、サンクトペテルブルクに首都を築いたのは、スウェーデンを敵にして戦う軍港都市を必要としたからでした。大北方戦争、第一次(1788年～90年)、第二次ロシア・スウェーデン戦争(1808年～09年)、ナポレオン戦争、露土戦争などいずれも西側諸国との関わりでした。

白熊の頭は西を向き、尾は東=アジアでした。しかし、日露戦争前後より白熊は本気で東を意識せざるを得なくなりました。また間接的ながら、ロシア国内での革命を加速させることにもなりました。

1922年にソ連時代になって以降、長い間欧米と冷戦状態にあり、NATO(北大西洋条約機構)とのにらみ合いが続きます。1991年ソ連崩壊後は、疲弊した経済を立ち直らせ発展させるために、アジア諸国との関係の構築と発展が重要であることを真剣に考え始めました。プーチン大統領は2012年にAPEC会議の開催地をはじめロシア極東(ウラジオストク)にもたら

し、そこでのスピーチで「21世紀の(ロシアの)ベクトルは東だ」と言明したのでした。この頃から白熊は本気で東を向き、アジア諸国との関係発展に注力するようになったのです。

●日本とロシアは隣国

日本からはロシアがどのように見えていたでしょうか。東西冷戦時代、米国側に立つ日本にとってロシアは仮想敵国でした。ただし、そうした中でも実は日本とソ連の貿易は活発に行われていました。1967年、ブレジネフ書記長の時代に日本の大手商社がモスクワに事務所開設を認可された結果、経済関係は急速に進みました。日本との協力で多くのシベリア開発プロジェクトが実現し、貿易額でもソ連が崩壊するまで、日本はロシアとの貿易額において常にドイツに次いで2番目の地位を維持していたのです。(次号につづく)

令和2年11月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷株式会社



外務省・新日系人招へい事業

～アメリカからの便り～

IFAは、平成20年度、2009年3月より毎年、外務省北米一課が主管する、米国「新日系人招へいプログラム」を企画入札により実施している。今般、2016年6月～7月にかけて実施の第6回プログラム参加者より近況が届いたので紹介する。

(関連記事：本紙2020年5月号)

カレオ・ヨネイチ・チャン (ワシントン州)

昨年冬の冬にワシントン大学で日本語の文学士号を取得し卒業後、この1月から、ケイラインロジスティクス株式会社(“K” Line Logistics, Ltd.)シアトル支所に勤務して5ヵ月になります。日本の宇宙航空企業が得意先で、北アメリカとヨーロッパから日本に航空機部品を輸出しています。相手先の皆さんは日本の方で、同僚の多くも日本人です。こうして日米の国際交流の機会を持ち続けています。

昨年1年間、私は九州大学に留学していました。福岡県の郊外に1年滞在したのです。学校や地域社会に入り込んでいました。

●九州大学での暮らし

大学では日本の社会や国際化、日本語教育制度、そして日本の農業起業家について学びました。もちろん、日本語の集中講座も受けました。

海外留学生と日本の学生との国際友好行事の企画もしました。それを通して国際理解と友情交流を互いに構築できるようにしたかったのです。アメリカ人や日本の友人とはよく「たこやきパーティー」や「餃子パーティー」をして夜通しカラオケも楽しみました。

在学中に佐賀県の年配の農家の方と働く機会もありました。私に田植えや稲の収穫の仕方を教えてくれました。仕事を終わると一緒に昼食を食べ、自分の生い立ちや日系アメリカ人のことなども話しました。

地方の青少年との交流も楽しかったです。小学校を訪問して英語のレッスンをしたり、ここでも自分の生い立ちを話しました。日本の家族と親しくなり、日帰り旅行に行ったりして、よく一緒に過ごしました。家族の子供たちの英語の勉強も時々みてあげましたが、彼らからはたくさんの博多弁を覚えてもらいました。

福岡未来創造キャンプ「On Your Mark!」という2泊3日の行事では、海外の大学生と日本の大学生と一緒に

なって福岡県の高校生参加者に対して国際相互理解と友情交歓を実際に経験してもらうプログラムを組みました。

アメリカからの参加学生もいて、また、多くの協賛企業や関連会社の方々ともこの行事を通じてお会いできたのは本当に良かったです。

●4年前にプログラム



都内視察、迎賓館前。向かって左から2番目

日本国外務省の事業に選ばれたとき、本当に嬉しかったです。10日間という短い滞在にもかかわらず、多くの日本の側面を学びました。文化、歴史、科学技術、政治、そして街中の普通の様子を実際に見て聞いて知りました。何よりも学校訪問とホームステイでは生徒や家族と話し合えたのが本当に楽しい時間でした。

今の私の会社生活を思うと、4年前のあの「新日系人招へい事業」に参加できたからだと思っています。今後自分にも何かできることがあれば、何でも協力していきたいです。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター

おやま 麻由実

シリーズ8 トリニダード・トバゴ

2017年1月に夫と二人で世界新婚旅行に出かけ、約100ヵ国を3年かけて回りました。今回は世界三大カーニバルが毎年実施されるトリニダード・トバゴを紹介します。

●スチールパンを聞きに行こう

2016年10月に中央アメリカ、カリブ海のジャマイカから空路で向いました。千葉県よりやや大きな広さで、人口139万人、沖縄市とほぼ同じ。1498年にコロンブスがトリニダード島を発見したこともあり、首都はポート・オブ・スペイン。その約100年後に英国人がトバゴ島を発見し、1962年に独立するまで英国自治領でした。公用語は英語、宗教はキリスト教、ヒンドゥー教、イスラム教などで、インド、アフリカ系民族が全体の70%です。

首都にあるピアルコ国際空港に到着。何日滞在するのか、どこに泊まるのかなど細かく聞かれましたが問題なく無事入国できました。港内には有名なスチールパンのオブジェがお出迎え。

スチールパンとは、ドラム缶から作られた打楽器で、国民楽器として認定されているそうです。説明が難しいのですが、ドラム缶の底を異なる角度に

へこませることで音階になっていて、叩く位置によって音階が異なり、メロディーを奏でることができます。



尋ねたのは、スチールパンの練習をしている場所、バンヤードです。皆さん練習で何気なく弾いていますが、とにかくカッコいい。自然なリズムの取り方、体の動き、特にベースの動きが素晴らしく、目が釘付けになりました。音楽が彼らの一部といった感じ。大小様々な大きさのスチールパンが奏でるハーモニーが心地よく、聴いている我々も自然と体を動かしていました。

少したったところで、聴いている人たちが皆、直立不動に。手は横にピシッと静寂。すると完成度の高い、完璧な演奏。そうです。最後に彼らが演奏したのは国歌でした。必ず練習の最後に演奏するそうですが、これが本当に素

晴らしくて、体中に響きわたりました。外に出ると、カリブの島の夕焼けはどこまでも美しく、夢のようでした。

●サメバーガー

音楽の次は食事。首都から一つ峠を越えて行くとマラカスベイです。その道中の景色は美しい空と山、そして峠には何と日本の駄菓子屋さんみたいな屋台が出ていました。海を臨む景色が美しい。そこから峠を下り、ビーチに到着。湾の奥は漁村で、海を見ながら木陰で乾杯。そこで食べるのが、名物、RICHARD'S サメバーガーです。まずはバンドとバーガーを渡されます。それだけでもボリューム満点。そこに好きなだけレタス、キュウリ、トマト、パイナップル、マンゴー、そして様々なソースをかけることができます。サメはくせがなくふっくら肉厚で美味。いい音楽と食事、自然の中でゆっくりと過ごす最高の地でした。

令和2年6月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷刷



外務省・新日系人招へい事業

～ホストファミリーとの交流続く～

IFAでは、外務省北米一課が主管する「米国新日系人招へいプログラム」の企画入札を、平成21年3月の第1回プログラムから、昨年度の事業まで落札し、11回を実施・運営している。

米国日系人社会には、日系人と非日系人双方の祖父母もしくは親をもつ子女や、近年では米国人と婚姻等により米国永住者となった「新一世」と呼ばれる親をもつ子女等、さまざまな背景の日系米国人青年がいる。日本国では彼らを「新日系人」と称し、日本語や日本文化の認識・継承を支援するために訪日研修の機会を提供している。

毎回、10日間の日程で、日本理解講座への参加、東京と京都で日本の歴史、文化、社会を視察。高校での1日体験やホームステイも行う。参加者は5名で、全米を管轄する日本国在外公館（大使館と総領事館）で選ばれる。

今年度は、折しも新型コロナウイルス感染拡大により、同プログラムの6月下旬の実施は取り止めとなったが、

ここに、第9回プログラムのホストファミリーからの便りを紹介する。

◆参加者：ゾイ・アリヤマ
(イリノイ州)

ホストファミリー：母：長原 祐子
娘：長原 さつき

大変ご無沙汰しております。3年前の7月ごろに、アメリカ人高校生の招へいプログラムで、Zoe Ariyamaさん（当時17歳）のホストファミリーをさせていただきました。今、Zoeさんは大学生になられて、東京に留学で来日なさっていて、今日、うちに遊びにいらしてくださいました。

この3年間もご縁は繋がっていましたが、こうしてまたお逢いし、ゆっくり食事し、お話して、3年間でものすごい成長をなさっているのを目の当たりにして、とても感激いたしました。

我が家の娘もあの子のZoeさんと同じ年齢になり、今年7月から（コロナでどうなるか不透明ではありますが）アメリカに1年間、留学することになっています。あの時、ホストファミリーを受けさせていただいたことを改めて感謝した1日でした。



3年前、初めてのホストファミリーで、家族でZoeさんの資料を拝見して、わくわくしてお待ちしたことを思い出します。来日前にメールでのやりとりをして、いろいろと準備もできました。魚が苦手なので手巻き寿司にし

ようと思っていたけれど、お肉のメニューにしようとか、アートがお好きとあるから、どこの美術館に一緒に行こうかなど、お迎えする前の時間もとても楽しく、嬉しかったことを覚えています。



左がZoeさん、右端が娘。中央は、
チャンマーとのハーフの娘の友人

お箸が上手に使えていたこと、和食に抵抗がなかったこと、あんこや抹茶が好きだったこと、特にお箸の使い方はびっくりしました。いつも和食を召し上がっていないようでしたが、お父様が日本人でいらっしゃるのでも、とても自然な感じがありました。会話は英語なので難しくはあったのですが、翻訳機能を使ってある程度何とかなりました。

あの子は、日本式のお風呂に入らず、シャワーだけでしたが、今回留学で来日し、何と銭湯にも温泉にも入ったとのこと。梅干しのおにぎりも大好きと言っています。私と一緒にいった六本木のミッドタウンの中にある21_21ギャラリーが好きだとも話してくれました。夢のような1日でした。

世界万華鏡

“中国便り”

東京大学医科学研究所 特任教授

はやし みつえ
林 光江

2020年3月現在、世界は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の真ただ中にある。中国・武漢で急きょ行われた都市封鎖によって「二重の危機」に直面した人々がいた。HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者だ。

2018年末時点で湖北省にはHIV感染者が1万9千人いたという。その多くは日常生活の中で感染の事実を他人に知られないように生きている。交通規制が始まった1月23日、中国は1年のうち最大の祝日「春節」を2日後に控えていた。多くの職場は約1週間の休暇となり、2月3日からまた日常生活が始まるはずだった。1週間分の薬しか持たずに帰省・移動した人も多い。HIVの治療では服薬時間を厳格に守らないと薬剤耐性が起きやすい。薬を替えることはできるが必ず効くという保証はなく副作用の程度も異なる。二つ目の「危機」とは思いがけず感染を知られてしまう恐れである。

武漢の大学に通うある女子学生は幸運だった。武漢の金銀潭病院で薬を受け取っていたが、大学が冬休みに入り湖北省外の実家に帰っていたときに都市封鎖を知った。武漢へ戻ることはできない。感染を知らない家族に相談す

ることもできず不安に押しつぶされた。

1月26日、中国CDC（中国疾病予防管理センター）は登録地以外でも無償で薬を受け取れるよう通達を出した。登録先医療機関の証明書があれば、滞在先の医療機関で1ヵ月分の薬を無償で「借り受ける」ことができるようになった。しかし当時、金銀潭病院はCOVID-19患者対応の中心地となっており、いくら電話をかけても繋がらない。諦めかけていた彼女に救いの手が差し伸べられた。あるインターネットサイトに情報を入力すればボランティアが病院へ行き薬を受け取り送ってくれるというのだ。

実際の作業を担っていたのが武漢同志中心（武漢同性愛者センター）だ。このセンターは同性愛者を含む性的マイノリティの権利を守るため2011年に設立された公益団体で、当事者のカウンセリングや情報交換、関連知識の普及活動などを行っている。HIVの対策にも精通する同センターは、武漢の都市封鎖開始からまもなく金銀潭病院と交渉を始め、2月中旬には抗HIV薬を感染者の手に送り届けるサービスを開始した。ボランティアスタッフは毎日8時間ほどを金銀潭病院で過

ごす。他の患者と同じように長時間、列に並び受付を済ませ、また順番待ちの列に並び、薬を受け取る。それを抗HIV薬と分からないよう厳重に包装し、送り状に宛先を記入して送り出す。病院に入るスタッフにとっても感染のリスクは常にあり、院内では防護服を身につけているが、この防護服やN95マスクについてはSNS上で一般の人々から寄付を募っている。

この活動は金銀潭病院の担当医師の協力があることだ。HIV診療センターの阮連国医師は自身の連絡先を公開し、感染者からの相談にもっている。こうした善意の行動によって命を繋いでいる人たちがいた。

日々伝えられる感染拡大のニュースは私たちの心を重くし、生活面で不自由を強いられることも増えている。そんな中、このような助け合いの話を聞くと、少し心が休まる。（アジア感染症研究拠点『北京駐在スタッフの随想』より抜粋）

令和2年4月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷株式会社



外務省・新日系人招へい

～米国高校生「私の一枚」～

米国日系高校生が日本滞在中に最も印象に残った写真とそれを選んだ理由をここに紹介する。

(和訳：編集。関連記事：本誌8月号)

◇
グレース・マタヨシ (カリフォルニア)



ホストファミリーと一緒に餃子を作っているときの写真です。私は作ったことがなかったので、ホストマザーが作り方を教えてくれました。156個も作ったのです！餃子を作りながら、「風立ちぬ」を日本語で見ました。お気に入りの映画を見ながら何気ない会話がはずみ、ホームステイの中でも、最も心に残った時間の一つです。

クストファー・イチホ (カリフォルニア)



この研修中出会った人々が皆、私をとっても歓迎してくれて、愛情を注いでくれるのを感じました。ホストファミリーは少し前までは見知らぬ人達でした。たった3日一緒に過ごしただけなのに、私にとっては、本当に新しい家族になったと感じました。毎日新しい人々に出会い、交流したことは他では味わえない経験でした。同じ言葉をお話さなくても、愛情を感じることは難しいことではありませんでした。

ジャクリン・チュー (イリノイ)



私がこの神社の写真を選んだ理由は、今までにこんなに文化の中に宗教が根付いているのを見たことがなかったからです。アメリカと違って日本では、いたるところに神社があり、大変興味深く感じました。

メイ・ユズキ (メリーランド)



ホームステイ中に、ホストシスターの英語の中間試験があったので、私は喜んで教えてあげました。アメリカでは、語学の学習はより会話の技術に焦点を当てており、統一化されているテスト形式はありません。日本では、標準化された語彙リストとテスト形式があり、それに沿って、読む、聞く、話すという技能も盛り込んだ教授方法があるようです。ホストシスターは、将来の職業に活かせるよう、英語の勉強をいつも前向きに頑張っています。

ブーン・ナカソネ (ユタ)



高校一日体験入学がとても楽しかったので、この一枚を選びました。今回の研修の中で、最も心に残った時間でした。

世界万華鏡

中国留学生の見た日本 キョ・キケイ

“星に願いを”

「笹の葉さらさら軒端に揺れる、お星様キラキラ空から見てる」皆さんはこの歌詞に聞き覚えはありませんか。これは「七夕」という日本の童謡の歌詞です。

今年の7月7日に私は友達と約束して出かけました。その日、ショッピングモールの入口や駅の近くに紙がいっぱい吊るしてある木を何回も見かけました。その紙に何か書いてあるようでした。「今日は何の特別な日ですか」と友達に聞いたら、7月7日は日本の七夕ということを知って驚きました。

私の国、中国でも七夕がありますが、祝い方は日本と全然違います。中国の七夕は旧暦の7月7日で、日付は毎年変わります。そして中国で唯一の伝統的な恋人の日として人々に重視されています。織姫と彦星は1年に1回だけ七夕に天の川を越えて会えるので、その物語に憧れを抱く多くの中国人は、よく七夕の日に恋人にプレゼントを渡したり、一緒にご飯を食べて過ごしたりします。しかし調べてみると、日本の七夕は「願い事」が主人公だということが分かりました。

一説によると、笹は神聖なもので、笹の葉が擦れ合う音は神様を招くとされ、願い事が叶うように短冊に願い事

を書いた後、笹飾りをするようになったそうです。そして七夕の日に笹飾りをするのはアジアでは日本だけです。



どうして日本だけは「恋人の日」というより「願い事」が主人公なのでしょう。私は来日して半年の間に日本人とのコミュニケーションや本で学んだ日本文化を思い出して、答えが分かるような気がしました。日本人はよく人に対する思いやりの心がある人が多いと言われていますが、私も普段よく日本人に気を遣ってもらっていると感じることがあり、とても温かい気持ちになります。日本人はきっと恋人に気持ちを伝える時、自分だけでなく相手の幸福や健康もいつも願っているから、七夕の日に星に願い事をするのではないのでしょうか。それで時間の流れとともに「願い事」が主人公になったのではないかと私は思います。

同じ七夕というイベントですが、国や文化によってこのような違いがあるとは日本に来る前には考えもしませんでした。七夕をきっかけに私は、これまでの考え方や思い込みから抜け出して、いろいろな文化を受け入れて、理解し、多様性を持つ人になることが留学の真の意味ではないかと思うようになりました。

留学生である私達は、日本で何年間か生活すると決めたのですから、勉強だけでなく、新たな物事と触れ合い、様々なことを経験し、豊かな留学生活を送っていきたくです。そして留学生活を終えたとき、日本での経験を通して、私たちの願い事が一つでも多く叶うよう、私も七夕の笹飾りにお願いしたいと思います。

令和元年8月29日実施、IFA後援、「ARC日本語学校スピーチ大会」(於：国立オリンピック記念青少年総合センター)の優勝スピーチ。

令和元年9月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：ダイト印刷株式会社



外務省・新日系人招へい事業

～5名の米国高校生来日～

米国日系人社会においては、いわゆる「新日系人」(日系人と非日系人双方の祖先をもつ子女・日本人米国永住者の親をもつ子女)と呼ばれる、さまざまな背景の日系米国人青年に対する日本語教育・日本文化継承の必要性が増大している。

日本国外務省では、こうした状況を支援するために「新日系人招へいプログラム」を発足させ、米国の日系人青少年の日本的アイデンティティ(日本への帰属意識)を高め、日本への思いをより良いものにし、さらには、将来、日本と米国のあらゆる分野における架け橋として活躍する人材になってもらうために、新日系人を日本に招き研修を行っている。

IFAでは平成21年度の初回から企画・実施運営を行っているが、11回目の今回も担当し、成功裏に終了した。



全米50州を管轄する日本国在外公館(大使館と総領事館)で募集を行い、

在外公館ならびに外務省の選考を経て選抜された男子2名・女子3名、計5名の高校生が6月29日から来日し11日間滞在した。

外務省への表敬訪問、高校での一日体験入学、都内視察、京都訪問などを行い、日本の社会、歴史、文化、政治・経済等さまざまな側面から日本と日本人について学んだ。

東京およびその近郊での2泊3日のホームステイでは、日本の普段の生活も経験した。

以下、高校生たちが見た日本についての感想の一部を紹介する。



メイ・ユズキ(メリーランド)

この研修を通して、日本の文化、歴史について学ぶだけではなく、日系三世である父の国で「人と人」としての繋がりを築くことができました。



グレース・マタヨシ(カリフォルニア)

高校訪問はとても楽しく、もっと時間があつたら良かったと思いました。日本の高校生がどのように英語を学んでいるのかを知って興味深かったです。部活動の剣道体験もとても面白かったです。日本の高校規則は厳しいと思っ

ていましたが、実際に訪れてみると、高校は素晴らしいことが分かりました。

ブーン・ナカソネ(ユタ)

ホームステイでは日本の生活をよりよく理解することができました。ホスト家庭はとても親切で、一緒に過ごしてとても楽しかったです。将来は沖縄で英語を教えたいと考えているので、この研修は日本を理解する良い経験となりました。

クストファー・イチホ(カリフォルニア)

高校訪問が一番楽しかったです。日本で高校生と交流するのは、またとない経験でした。この経験を通して、日本とアメリカの高校生は似ているのだと気づきました。

ジャクリン・チュー(イリノイ)

外務省の表敬訪問を通して、なぜ自分が招へいされたのかを改めて考え、日本とアメリカの架け橋になりたいと思いました。(英訳:編集)



日系人の歴史は19世紀末、ハワイへの移民を皮切りにその後多くの日本人が海外に移住し、現在、世界中に約380万人、その内、米国には約130万人がいるとも言われている。

本事業を通し、参加者が日本人そして日本文化や習慣を理解し、同時に受け入れに関係した日本人も、日系人の歴史や文化、現状を知りより良い関係へと発展することをIFAは願っている。

世界万華鏡

国際交流・コーディネーター

おやま まゆみ
小山 麻由実

シリーズ5 エチオピア(その1)

2015年3月31日から約3年間、夫と二人で世界一周新婚旅行をしました。約100ヵ国を回りましたが、「世界一過酷なツアー」と言われる、エチオピア・ダナキルツアーは、世界一周するなら、絶対に外せない場所です。

ダナキルツアー(旅の始まり～塩湖)

エチオピアの面積は日本の約10倍、人口は日本より2千万人ほど少ない、約1億5百万人です。アフリカ大陸東側に位置し、東西南北、ジブチ、スーダン、ソマリア、エリトリアに囲まれた世界最古の独立国の1つです。

まず、ツアーに参加するために首都、アジスアベバから北に高速バスで約14時間、エリトリア国境のメケレに向かいます。現地旅行会社で600ドルのツアーを値引き交渉し、翌々日の出発を予約。説明書には英語で、「世界一の悪路を進みます」とありました。内容は塩湖、ダロール火山、エルタ・アレ火山、4日間のツアーです。

<ツアーに含まれているもの>

エアコン付きトヨタ車で全工程移動/英語ガイド/全工程の入場料・許可証代/ツアー中の全食事と宿代・寝袋とマット/水1日1人5リットルまで/

政府への税金/ドライバー・コック・セキュリティ(銃を持った警護人)



我々のグループは、オランダ4人・イスラエル3人・フランス2人・中国2人・韓国2人・イギリス・カナダ・ドイツ・タイが各1人の総勢19人。

大きな荷物は旅行会社に預け、11月23日10時に出発。道は舗装道路ですが、ラクダやロバにふさがれながら荒涼とした大地、峠や谷を進み、13時頃に村が見えてきてお昼。小屋のようなレストランで案外美味しいミートソースライスと揚げ茄子でした。食後すぐ道端で停車、道の左側が男性、右側が女性と指示され青空トイレタイムです。

その後、荒野を進み、15時過ぎに次の村に到着。数個の小屋以外辺り一面何もなく、風は熱風でとにかく暑く息苦しい。すぐにクーラーの効いた車の中に避難です。道は塩混じりの大地、そして塩湖が見えてきました。ここは風があまりないからか、綺麗なガラス張りの湖、夕陽が沈む反射は美しく、飽きることがありません。そして夕方から熱風は温風に変わり一安心。

この日の寝床は、先ほどの荒野の中にポツリとある村。木と葦で作った簡

易青空ベッドを子供たちが運んできてくれ、電気も屋根も壁もない野外に星空を見上げながら1泊しました。



翌朝、荒野の真ん中で温かい朝食を作ってもらい、今度は乾いた塩湖に向かって出発。朝焼けで塩湖の凹凸が照らされ美しい。道はいつの間にか舗装でなくなり大地。遠くに何やら行列が。塩のキャラバンです。ラクダとロバが四角に切った塩の束を背中に積んで運ぶのです。キャラバンの元をたどると、50度を超える炎天下の中、乾いた塩湖を掘り起こし、丁寧に採取する労働者達。水もないこの環境での過酷な労働。言葉では伝えきれない、旅はまさに百聞は一見に如かずの連続です。(つづく)

令和元年7月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: ダイト印刷株式会社



外務省・新日系人招へい事業

～米国高校生「現在の私」～

IFAは平成21年から外務省「新日系人招へい事業」を実施運営しており、今年で10回目、計53名の米国日系高校生が参加している。ここに、過去の参加者より届いた便りを紹介する。

◇

グレース・アレクサンドラ・ニューセズ
(イリノイ州 平成22年参加)

私は現在、イリノイ州の中学校で科学と社会の先生をしています。その後、日本を訪れるチャンスはまだありませんが、また行きたいと思っています。日本のコミュニティとの関わりを持ち続けたいと考えており、当地で行われている、年に1度の銀座フェスティバル、夏祭り、盆踊りに参加しています。

中学校の生徒達にはすべての文化を尊重するように教えており、特に日本と米国との友好関係を、自分の経験を基に伝えています。生徒達はいつも沢山の質問をして、興味深々です。

2010年にこのプログラムに参加できたことは、私にとって一生に一度の特別な経験でした。日本の文化と人々について多くを学ぶことができ、今でも日本で経験をしたことを日々実践しています。日本語も機会を見つけてなるべく使うようにしています。

今年、中学校で日本クラブを立ち上げました。生徒からの人気は上々で、彼らは日本の文化や言語を学ぶことを楽しんでいます。私がそうであるように、生徒達が日本文化に対して熱心になっていることは大変素晴らしいことだと思います。

◇

エミリー・アヤ・イサカリ
(カリフォルニア州 平成23年参加)

私は現在、日本に住み、東京で人材採用の仕事をしています。米国の大学在籍中の2018年、日本に約半年間留学しその後、大学を卒業してすぐ日本へ来ました。在籍中には、日米関係に詳しい2人の米国政治家の下でインターンをし、米国国会議事堂での日米関係のブリーフィングに参加しました。

また、マンズフィールド財団の東京事務所でのインターンでは日米関係について学び、日本の国会議員にも面会しました。日本留学中に、日本に住み、ここで仕事をしたいと確信したので、日本で就職活動をしました。

6年前にこのプログラムに参加できたことは一生に一度の経験で、貴重な

体験ができたことに感謝しています。今でも参加メンバーやホストファミリーとは連絡を取り合っています。当時のホストファミリーは、現在、私の日本の家族とも言える存在で、私の日本の生活を助けてくれています。

◇

エリザベス・ダウンス・クラタ
(コロラド州 平成24年参加)

私は現在、日系アメリカ人市民同盟でのフェローシップを終え、Global Zeroという核兵器廃絶を目指す組織での仕事を始めたところです。

2016年に大学を卒業してからは、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)で長崎県大村市で1年間過ごしました。そして2017年12月には、日系アメリカ人市民同盟と日本の外務省が連携した、カケハシプロジェクトで引率者として、200人もの日系アメリカ人青年たちを日本に連れて行きました。JETで日本で過ごした日々、そして日系アメリカ人市民同盟で外務省や関連団体等、日本政府と日々やり取りをした経験は、私にとって日米の相互理解と両国の友好関係を築くとても良い機会だったと思います。そしてその経験を日系人として日々学生たちに教えています。

この新日系人プログラムに参加できたことは、私の人生を大きく変えてくれました。これからも私の経験を広く伝えていきたいです。(和訳:編集)

世界万華鏡

ロシア、初めて出張記

株式会社ロゴ ソリューション・マネジャー

とみなが ひろし
富永 宏志

10月4日、まだまだ残暑が続く日本を後にロシアを訪れる機会を得ました。ロシア西部に位置する、人口30~50万人のアルハンゲリスク、オレンブルク、キーロフ、カルーガの4都市です。それぞれ2日間、「KAIZEN講座」を実施しました。

最初の訪問地、アルハンゲリスク州は、3℃と日本の真冬並み。しかし現地の方はまだ薄着も多く、流石ロシアの方は寒さに強いと感動です。しかし、それ以上に驚いたのは、参加者の期待です。当初、会場は40人規模とのことでしたが、最初の会場は100人以上の参加者となり、大学の階段教室です。他3会場も同様に各80人以上の参加となり大盛況でした。

会場を提供くださった各国立大学の学長や州の代表、州政府の方々、大統領プログラム(1997年開始のロシア大統領令、「企業経営者養成計画」)修了者との交流を通し、講座への期待がひしひしと伝わりました。皆さん、よく食べ、よく飲み、明るく、自分の意見をもつ素晴らしい方々ばかりでした。申込者が多数だったため、参加条件を絞り、経営者、大学講師、工場長、州の官僚などが多かったです。

参加者は、誰一人として居眠りをする方はおらず、本当に真面目で何でも



吸収しようと集中して聞いています。気になることがあればすぐに質問が飛び、真剣勝負です。

講座は「安全」と「見える化」についてのワークショップです。これまでの支援で「KAIZEN」がロシア企業・公官庁でも取り入れられていますが、定着が難しいのはなぜかを考えました。終了後の現地企業訪問や見学でわかったのですが、経営者幹部はKAIZENを勉強し、生産性の向上を目指し、整理・整頓・清掃も取り入れているのですが、「全員参加のチームプレイ」の考えが残念ながら従業員に浸透していないと感じました。

このため、まずは「現場の納得感を得るものから開始する」が検討課題。最後の講座では、特に従業員にとって大切な「安全」で幸せな職場を意識し、「自分達の職場環境を整備することには、お金を掛けなくてもできる」を伝えたと変化が出てきたようです。

今後の皆さんのKAIZEN活動に活用し継続してもらいたい旨を伝え講座

を終了しました。受講終了後に多数の方々の手書きパネルを写真やメモを取る姿があり手応えを感じました。

会場の外は、木々が黄(ゆ)色に色づく紅東(さつまいも)の時期とも重なり、その美しさに感動でした。



日本の製造業やサービス業の現場では従来から「カイゼン活動」が活発に行われています。仕事の品質を高め、仕事をやり易くすることは、上司の指示によることもありますが、多くは職場のチームごとに自主的になされます。ロシアの企業経営者たちが、働く人たちとのコミュニケーションを活発化し、成果が上がることを期待しながら帰路に着きました。

平成30年12月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷刷



外務省・新日系人招へい

～米国高校生の「私の一枚」～

米国日系高校生が日本滞在中に最も印象に残った写真とそれを選んだ理由をここに紹介する。

(和訳：編集。関連記事：本誌7月号)



レベッカ・ジャクソン (メリーランド)



日本では慣習と願いに重きをおいていることに気づいた。寺院や神社を訪問すると、このような七夕の飾りが日本中にあり、こうした思いを大切にしている、心が豊かなのだと思う。短冊の願いは、多くが家族の幸せ、世界の平和、皆の健康を願うものだった。アメリカでは、様々な人々が、それぞれの異なった信仰をもっているが、日本では、多くの部分において、信仰や伝統、慣習、習わしが一つになっている。

ジェームズ・ツカダ (ペンシルベニア)



新しいものと古いものとが融合しており、それが日本のユニークな点だと思う。京都の町家に軽自動車が走っているのを私の一枚として選んだのは、またとない経験としてさまざまな地を訪ね、伝統の中に対比する技術を見ることができたからです。

コナー・ナカムラ (カリフォルニア)



この温泉の写真は、私のホストファミリーのホスピタリティと親切さが表れている。アメリカ人としては、温泉は馴染みのないものだが、このくつろげる日本の文化に触れさせてもらったことが嬉しかった。

アンジェラ・ザクラヴスキー (カリフォルニア)



この写真は、日本とアメリカの文化の違いを表している。私にとって、とても興味深いものだ。小学生が学校から一緒に下校し、その後、一人で家に歩いて帰る。これは日本人が安全を重要視していて、また日本が安全な地だからだと分かる。

アンドレ・ハダ (フロリダ)



外務省で日本の外交政策と歴史について、たくさんのことを学んだ。この研修の全体の中で、最も主要な時間の一つだった。山路企画官は私たちの質問に丁寧に答えてくださった。外務省に本当に感謝している。

世界万華鏡

“平成30年度スウェーデン高校生訪日研修”

ホストファミリーの見たスウェーデン

●東京都・高校1・大学1家庭

スウェーデンという国を知る良い機会となったと同時に、勤勉さなど、国民性も改めて日本人に近い感性があると感じました。食べられない食材などがあるか等、家庭料理を食べてもらえるか心配しましたが、何でも気持ちよく食べてもらえました。朝の通学で30分の小田急線急行に心配はありましたが、本人が努力してくれました。

●神奈川県・高校3・大学3家庭

移民の生徒で、ドイツやスウェーデン、アラブの食や国のことなどを知る機会になりました。しっかりしたお嬢さんでスケジュールや体調管理も私たちとコミュニケーションをとりながらの生活でした。疲れを見せていて心配した私たちに、「授業で疲れた、ホームシックではない」と話してくれました。お弁当の量や主食を米かパンか、本人が希望して出したイカの塩辛など、話し合いながら解決しました。通学の電車のラッシュを心配していたのですが、短い時間で各駅停車のため負担はなかったようです。放課後は部活動に参加したり、クラスメートと横浜に出かけ、女子高校生らしい時間、100円ショップでの買物やブリクラの撮影な

どを楽しんでいたようです。

●東京都・中学2家庭

日本のお風呂文化を体験してもらいたいと思い、日本の名湯シリーズで誘いましたがだめでした。食事には本当に困りました。特にアレルギーなどはなかったのですが、好き嫌いが多く、本人より聞き出してみたら、ゆでたキャベツはOK。スープみたいにゆでてあるのはNO。ジャガイモは好きでも、肉じゃがのように汁になっているのはNO。納豆、生卵、いくら等がダメなのは分かりますが、ゆで卵、卵焼きはNO、オムレツOK。ハンバーガーに入っているくらいのレタスOK。サラダNO。朝からご飯は食べられないそうで、ココア、ジュース、牛乳は、リアルに入れるくらいはOK。すべての甘味(和菓子断念)、葛湯も形態が変化して面白いと思ったのですがNO。最後までスウェーデン流を貫いていまして。滞在期間が短く、少し慣れたころに帰国だったという感じです。

●神奈川県・小学2・高校2・大学2

1週間の受入は初めてでしたが、すぐにお互いうちとけました。食べる量、好き嫌い、朝食をとるかどうかなど心

配でした。いざ受け入れると思っていたよりも小食だったので、体調不良かと思いましたが、普段もそうだと知り安心しました。子供同士は言葉以外にも互いに理解しようと積極的な姿勢が見られとても良かったです。家族も異なる文化を理解する貴重な時間となりました。

●東京都・中学3・高2家庭

食事と会話が心配でした。来日後の1週間に和食はかなり食べていたようなので、手巻き寿司など色々と考えていたメニューを少し減らし、IKEAで購入したスウェーデン料理や洋食を増やしました。買物に行き、食材を選んでもらい一緒に作ったのが良かったです。夫も協力してくれ、息子は通学などで一番頑張り、娘は学校で習った単語を積極的に使い、私も翻訳アプリを使いながら単語を並べて毎日会話しました。

平成30年7月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



外務省 JENESYS 2017

～韓国高校生からのメッセージ～

公益財団法人国際文化フォーラムと IFA との共催事業、日韓文化交流基金主幹の「韓国高校生・校長招へい事業」に参加する高校生の参加前の日本への思いと応募の動機をここに紹介する。研修のテーマは、「日本とのつながりが深まるような人やモノに出会う」(関連記事：本紙 8月号)

ソ・スングォン 徳源女子高校 2年 ソウル

普段、日本について関心があり、今まで独力で勉強してきました。今の進路は日本語の同時通訳士で、この職業を目指すため色々な面から努力してきました。そうしているうち、独学では限界があると感じ、もっと勉強するために今回参加します。日本の文化と韓国の文化の差も経験して感じてみたいし、実際、日本人と会うことでコミュニケーション能力を向上させたいと思います。

キム・ジョン 美林女子情報科学高校 2年 ソウル

日本を訪問して、韓国の生活で普段感じられない日本の文化と伝統を体験してみたいです。ホームステイをすることで、今までは直接感じる事がなかった生活習慣を経験して、日韓の交流に役立てたいです。日本に行きたい、という気持ちが大きくて、いつもはインターネットで調べたりしていますが、このプログラムを通じて、夢を実現できる機会を得られそうです。

イ・ヒョンジン 梧柳高校 1年 女子 ソウル

メディアを通じて見た日本は、真実から遠のき歴史から背を向ける冷たい姿ばかりだったけれど、実際、家族と日本へ旅行に行き感じたのは、とても人情味があって、温もりがあって、きれいな街で、親切でした。メディアを通じてではなく、直接行って、自分に見えるすべての素敵な日本の本当の姿を、もっと知りたいと思います。

ヤン・スングク 桃林高校 2年 男子 仁川

小さいころから日本のアニメと小説に接していて、「日本」について想像力を膨らませてきました。高校に入学したばかりのころは、好きな日本のアニメと小説を翻訳して出版する職業に進もうと思っていました。その後、高校2年の休みに参加した日本語のキャン

プ活動で、日本の食べ物や衣服、礼節などの文化に接して、休みが終わってからは日本へ旅行に行きました。この二つの経験は、私が今まで間接的に経験してきた日本の文化についての興味を高める契機になりました。これまで培ってきた知識を直接体験したいです。

キム・テピョン 江景商業高校 2年 男子 忠清南道

就職、人生においての新しい見聞を広げて、日本の文化の中で我々に必要な文化を学びたいです。また、日本で友人をつくり思い出もつくって、一緒に写真も撮って、話をしてみたいです。また、日本でできた友人から料理を教わりたいし、機会があれば、その友人に韓国の料理を作ってあげたいです。

パク・ウンソン 筏矯女子高校 1年 全羅南道

韓国で人気がある日本の作家が韓国に来て、親しい韓国の作家と久しぶりに会い話をすることを KBS 日本語ラジオで聴きました。日本の作家が、「政府ばかりが日本と韓国は仲良くなるべき、近くならなければと意図がない。我々のように互いに親しくなる人が増えれば変化が生じる」と言いました。その話を母にすると、互いにその国に行って、直接話し親しくなって、心の世界を理解し文化を知ることの意味があり価値あると。日本へ行き、日本と韓国をつなぐ架け橋になりたい。

世界万華鏡

韓国高校生の見た日本

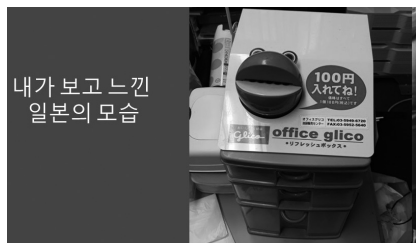
JENESYS 2017「韓国高校生招へい事業」参加者

2017年11月20日から28日に来日した韓国高校生11名は、研修のしめくりとして、5チームに分かれ、それぞれが見つけた日本について、パワーポイントで写真を作成し発表した。



How to escape from bus?

・バスの中にも非常口や緊急の際の連絡が取れる機器があり驚いた。こうした非常口は訪問した学校にもあった。韓国でも見習うと良いと思った。



・企業訪問で社員用に100円を入れて、一つ好きなお菓子を引き出しから自由に取れるようになっているボックスを

見た。売手と買手がともに利益があるのは、ルールを守る日本人だからだ。



・ラーメンを注文したら、切符のような券を渡され、出来上がって取りに行くと、半券をちぎって確認してから渡してくれた。お客様とのやりとり間違いがないようにする工夫がすごい。



・日本で働いている韓国人の話をお聞きした。PLUS株式会社とKOTRA(大韓貿易投資振興公社)の方で、日

韓の架け橋になっていると思った。



・日本の文化を残す浅草寺とそこから望む、近代化の象徴であるスカイツリーとビル群がとても印象に残っている。また、神社の鳥居も色々なところで見つけた。鳥居は赤だと思っていたら、赤だけではなく、石や木そのままのももあった。これからの日本は、こうした古い文化が少しずつ消えてゆくのだろうか。

(聞き取り・日本語訳：編集)

平成 29年 12月 17日 発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ 703
 発行責任者：及川 伊佐子
 編集：事務局 03(3582)3021
 印刷：音和堂印刷株式会社



外務省 JENESYS 2017

“韓国高校生・校長招へい事業”

IFA では、公益財団法人日韓文化交流基金の「韓国との間の招へい事業」を昨年と同様に公益財団法人国際文化フォーラムと共催することとなった。「日本とのつながりが深まるような人やモノに出会う」をテーマとした事業概要を以下、紹介する。

●事業趣旨

日韓両国の市民レベルの文化交流を促進し、相互理解と信頼関係を築くことを目的とし、将来の日本と韓国の、あらゆる分野における架け橋として活躍することが期待され、発信力のある韓国の高校生を選抜し、日本に招へいする。併せて、同校の校長を招へいすることにより、学校内および生徒の保護者を含めたより広い範囲の人々が日本に対する理解を深め、それぞれの地域において日本とつながりをもつ拠点校としての役割を果たしてもらおうことをめざす。

韓国高校生には東京、神奈川を中心に学校訪問や体験活動などを行う中で、観察力や発信・表現力を発揮してもらい、日本と韓国とのつながりを深めるような人たちや物を見つけるというプログラム。

校長先生には日本の教育制度、高等学校教育の状況、日本における韓国語・韓国文化教育の状況理解、世界に発信するジャパン・ブランド等日本の活力に触れ、日本の社会、文化への理解を深めてもらう。

●実施期間

【生徒】

11月20日～11月28日（9日間）

【校長】

11月20日～11月26日（7日間）

●事業内容：

- ①高校訪問（校長、教師、生徒間の交流）
- ②日本の文化を世界へ発信している人や企業を訪問
- ③ホームステイ（生徒のみ）
- ④日本事情理解講座（日本の社会、文化、生活、その他）
- ⑤韓国語・韓国文化の日本での教育状況を学ぶ
- ⑥日本の科学教育状況を学ぶ
- ⑦地方（箱根）視察（歴史、地方からの文化・観光発信）
- ⑧日本で活躍する韓国人、韓国との交流を進める日本人との懇談会

●参加者：21名

高校生10名、校長（もしくは教頭）、先生9名、引率教員2名

●参加韓国高校：9校

ソウル5校、仁川1校、京畿道1校、忠清南道1校、全羅南道1校

●参加者選考条件：

【生徒】

韓国の高校に在籍し、次の各項すべてを満たす者

- ①韓国国籍を有する高校生
- ②韓国出発から帰国まで全行程に参加できる者
- ③日本への渡航経験がない者（優先）
- ④心身ともに健康で日本での研修および生活に十分対応できる者
- ⑤相手の文化を尊重し、積極的にコミュニケーションをとろうとする意欲のある者
- ⑥団員として、協調性のある行動ができる者
- ⑦日本についての感想、来日中に学習した日本および日本人に関する情報を積極的に発信したいと思う者

現在、IFAでは11月24日（金）～26日（日）に東京近郊内で実施するホームステイのホストファミリーを募集しています。関心おありの方は下記までお問い合わせください。

IFA 交流事業担当

Email:ifa-exchange@ifa-japan.org

世界万華鏡

“アメリカだより” 平成28年度新日系人招聘事業参加 米国日系人高校生（昨年度）

皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年、ワシントン州から新日系人招聘事業に参加した、カレオ・チャンです。今年は、今年度この事業に同じワシントン州から参加したカミールの日本旅行の準備を手伝いました。帰国後には、日本でとても多くのことを学び、人々や文化・歴史について話してくれました。昨年度のメンバーとも皆で連絡を取り合っており、とても良い経験だったと話しています。

●この一年について

私はワシントン大学でようやく最初の1年を終えたところです。この1年いろいろな出来事がありました。昨年の夏に日本から帰国してから、今後、日本で教師としてキャリアを積んでいきたいと思うようになりました。これからは可能な限り日本、そして国際社会と関わり続けたいと考えています。卒業後に日本で教師になれるよう、大学の専攻を言語学と日本語学の両方にしました。

この1年、日本からの大学・大学院留学生5名に英語レッスンと会話練習を指導してきました。また、日本の政府団体で働きたいと考えていたところ、

兵庫県ワシントン州事務所でインターンシップを経験することもできました。そこで日米間の異文化理解促進のため、研究と文化イベントの準備や進行役を務めさせていただきました。

今年の夏休みはセントラル・ワシントンにあるアメリカ先住民保留地で毎日働きながら、積極的にボランティア活動もしています。地域社会との関わりをどう構築するのか、校外研究活動にも参加しています。来月は大学での勉強に加え日本の大学への留学手続きを始める予定です。次の学期では大学の留学生に対する英語の授業で先生たちの補佐をしながら、日本の方言学も学び始めます。

日本のホストファミリーや横須賀総合高校の友人と今も連絡を取り合っています。また日本に留学したら再会するつもりです。

●同期の仲間たち

カーター（オハイオ）はとても元気になっています。高校を卒業して、今年、名門大学、ペンシルベニア大学に入学しました。この夏は大いに楽しんで、9月からの大学生活を楽しみにしているようです。



ジョシュア（オレゴン）も高校を卒業し、一番行きたかった、ユタ州のブリガムヤング大学に進学です。

マリコ（イリノイ）は私の州のシアトル大学に通いはじめましたが、より自分に合った大学に行きたいと、住んでいたシカゴのロヨラ大学に移る予定です。皆、それぞれの目的に向かって頑張っています。

また、日本で皆と再会したいです。

（日本語訳：編集）

平成29年8月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



外務省・新日系人招へい

～米国高校生の「私の一枚」～

平成 29 年度新日系人招へい事業に参加した米国日系高校生が見つけた、日本を象徴する写真とその選んだ理由をここに紹介する。

(和訳：編集。関連記事：本誌 6 月)

カミール・ゲー (ワシントン)



この写真は東京スカイツリーの 1 階にあったジオラマ (展示周辺模型) です。この研修を通して、色々なところでこうしたジオラマを見ました。最初に泊まったオリンピック記念青少年センターには 2 ヶ所に異なる模型があり、京都大学にもありました。この写真には、重要、有名、人気のあるところに

ラベルで名前もあります。中には、異なる行き方をビデオで見ることができたものもありました。これらのジオラマは忙しい中で行く道を見つけなければならない人に、とても親切だと思います。そこには訪問客に対する日本人のおもてなしの心があると思いました。

ゾイ・アリヤマ (イリノイ)



神社と街が融合していることに興味をもちました。この写真の神道神社は丸いしめ縄から入ると自らを清めることができるそうです。精神性がとても良く語られ、お寺も開放的でとても感動しました。

アダム・ピーターズ (ミシガン)



この写真にとっても興味をもちました。

20 年後のようでもあり、20 年前の姿でもあるように見えます。いずれにしてもとても素敵な写真です。日本での時間は驚きで一杯でした。またすぐに戻ってきたいと思います。

ブランドン・リージャー (オハイオ)



ホストファミリーと Yukichi (犬) の写真で海岸沿いです。この素敵な写真は日本の美しさとユニークな雰囲気のある横須賀の町を感じさせます。とても落ち着いていて静かな街で、何しろ平和な地です。

ローレン・チャン (カリフォルニア)



この写真には日本を語る二つの側面があります。金閣寺は日本の輝かしい過去の歴史の象徴であり、その周辺の緑は他を圧倒する日本の風景です。

世界万華鏡

スウェーデン学生日本語弁論大会、高校の部 その3 トンバ高校 テレーズ・シェディン

来年 2018 年は、スウェーデンと日本の外交 150 周年になります。私たちが何ができるでしょうか。

私のアイデアは 2018 年にお祭りなど日本のイベントをたくさんすることです。なぜ、お祭りかと言うと、お祭りは日本とスウェーデンが共通している文化だからです。お祭りと言うと、日本のお花見とか、スウェーデンのお祭り、Bravalla (ブラバラ、音楽祭) のイメージがありますが、スウェーデンでも、日本でもお祭りはとても人気があります。

もちろん、スウェーデンのお祭りと日本のお祭りは違います。日本はお祭りが多い国で、一年中、日本のどこかでお祭りがあります。日本のお祭りは地域の歴史や文化、生活に根ざっていて、神道や米作りなど農業に関わりをもち、神社のおみこしをかついだり、伝統的な音楽を聞いたり、踊りを踊ったりして、盛りあがります。

私は、日本とスウェーデンで、両方の文化が学べ、人々が交流できるようなお祭りを提案します。たとえば、スウェーデンで、日本の祭りを紹介し、そこで人々が書道やいけばな、盆踊りなど日本の伝統文化を体験できるようにします。それに歌舞伎や、能、相撲、

伝統音楽など、日本のアーティストを招待してはどうでしょうか。スウェーデンではこのような日本の伝統的文化を実際に見る機会がありません。

私はスウェーデンの祭りに行ったとき、音楽を聞いたり、ダンスをしたり、新しい友だちに会ったりするのが楽しみです。日本の祭りには行ったことがありませんが、日本のドラマとか、映画を見たり、日本の友だちと話したりして、日本の祭りのイメージが頭の中にあります。たとえば、花火大会。人々は浴衣や着物を着ています。日本のお祭りには、スウェーデンのお祭りより、たくさんのお店があって、人々はいろいろな食べ物を食べることができます。日本は「すし」だけではなく、食文化が豊かな国です。「おだんご」や「いか焼き」、「かき氷」など、スウェーデンにはないユニークな食べ物が紹介されるといいと思います。

もう一つ、私はスウェーデンの学校でもお祭りがあるといいと思います。日本の学校には高校にも大学にも、学園祭があります。私が 1 週間通った、東京の渋谷高校では、クラスで江戸時代を再現するアクティビティに真剣に取り組んでいました。他のクラスやクラブも、カフェやお化け屋敷などを計

画していました。

学園祭を通じて、生徒や学生が結束して盛りあがるのは日本独特だと思います。私の学校では毎年 9 月にジャパNDERがあり、日本のことを紹介します。この日本の学園祭からはたくさんインスピレーションをもらいました。

最後に、私が今、日本とスウェーデンの関係についてスピーチできるのは、日本語を勉強しているお陰です。私は日本とスウェーデンの友好関係を、今後もっと強くするために、日本語を勉強する機会がもっと増えることを希望します。

150 周年を機会に、相互の言語の交流はもちろん、学術、芸術、音楽、スポーツなど様々な分野での交流の場が増えることを願っています。

2016 年 1 月 23 日 (土) に実施された、在スウェーデン日本国大使館主催「日本語弁論大会」。昨年、IFA の実施した「日本研修」に参加した生徒。

平成 29 年 7 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



新日系人招へいプログラム

～米国高校生訪日研修～

現在、在米日系人社会においては、日系人と非日系人双方の祖先を持つ子女、日本人米国永住者（いわゆる新1世）の親を持つ子女といった、日本人の血を引く、新たな時代の日系人の青少年（「新日系人」）に対する日本語教育・日本文化継承の必要性が増大している。

外務省では、こうした状況を支援するために、平成21年度より「新日系人招へいプログラム」を発足させて、新日系人の青少年に日本的アイデンティティ（日本への帰属意識）を高め、将来、日本と米国のあらゆる分野における架け橋として活躍する人材になってもらうために、有望な若者を選抜して日本に招き研修を行っている。

IFAでは、平成21年3月の第1回プログラムから、昨年第8回のプログラムを外務省の企画入札により実施・運営し、今般、平成29年6月実施の第9回プログラムも担当することとなった。ここに IFA 企画による研修日程を

紹介するとともに、本事業で欠くことのできないホームステイのホストファミリーを募集する。

第9回プログラム実施概要

実施場所：東京近郊、京都

期間：平成29年6月25日（日）～7月4日（火）10日間

対象者：米国在住の高校生（5名）

全米50州を管轄する日本国在外公館（大使館と総領事館）で募集を行い、応募者の中から在外公館ならびに外務省の選考を経て高校1年と2年の男子3名・女子2名、計5名が選ばれた。



第8回プログラム参加者（平成28年6月）

日程：

6/24（土）

米国各地出発、東京へ

6/25（日）

夕刻 成田空港着後、都内へ

6/26（月）

滞日・日本理解オリエンテーション
外務省表敬訪問

6/27（火）

東京・京都市内視察

6/30（金）

午前 日本語学校訪問、レッスン

午後 ホストファミリーと対面、ホームステイ

7/1（土）

終日 ホストファミリーとともに（東京および近郊）

7/2（日）

午後 宿泊先集合、報告書作成

7/3（月）

高校訪問・交流会

7/4（火）

午前 帰国準備

午後 東京発、成田空港、帰国へ

◇

日系人の歴史は19世紀末、ハワイへの移民を皮切りにその後多くの日本人が海外に移住し、現在、世界中に約260万人、その内、米国には約100万人がいるとも言われている。

この事業に応募する米国高校生は、日系家族の生き方を知り、自分の中にある日本人としての意識を育てたいと望んでいる。

来日する5名の日系高校生が、日本人の普段の生活の中で語り合い、日本の文化習慣、歴史を理解するとともに、受け入れる日本人たちが、日系人の歴史や現状を知りたいと願って、IFAではホストファミリーを募集している。

ホストファミリー募集

連絡先：一般社団法人国際フレンドシップ協会（IFA）交流事業担当

電話：03-3582-3021

Email：ifa-exchange@ifa-japan.org

世界万華鏡

“アメリカ便り” 平成27年度新日系人招聘事業参加 米国日系高校生の父親

お元気でお過ごしでしょうか。

昨日5月1日は、アメリカでは、高校3年生が自ら選んだ大学に正式に入学の意志表示をする日でした。2015年に「新日系人招聘事業」に参加した息子、コールは、いくつかの大学から入学が認められていましたが、2017年の8月からテキサス州ヒューストンにあるライス大学に行くことにしました。

ライス大学で日本に重点をおき国際関係の勉強を続けるつもりです。2015年にコールが日本の招聘事業に参加したことは、日本の言葉、文化、歴史、さらには国際関係を勉強する積極的な姿勢を形成しました。ライス大学でもディベートチームに参加し、公開討論や議会討論の技術も磨くつもりです。

昨年、コールがお伝えしましたが、高校では米国国内の主要な討論大会に参加しており、この写真は最近、優勝時にチームの仲間と撮ったものです。



写真中央：コール（Coleman Lambo）

討論のテーマは、「南シナ海における中国の勢力拡大、国際的なエネルギー保障、シリアの難民危機、日米同盟の重要性」でした。

コールがサンフランシスコの祖父母宅の倉庫で見つけたスーツケースの写真も送ります。ずっと昔、コールの曾祖母（日本人）が高校生だったころに、日本からアメリカへ渡ったときに使ったものです。スーツケースには、横浜からサンフランシスコへの遠洋定期船であるNYK Line（日本郵船）のマークがついています。このNYKのスーツケースを発見したことで、コールは、日本とのつながり、自分の過去を感じました。

アメリカ人はよく自分の家族がどのようにしてアメリカに着いたのか、その船を知りたいがります。それがアメリカでの第1歩だからです。今後、コールは米国移民の歴史を調べ、どの船で曾祖母が北太平洋を渡り日本と米国を行き来したのかを知るでしょう。それは今、横浜にある「氷川丸」だったかもしれません。氷川丸のWebサイトを見てください。楽しくなります。

http://www.nyk.com/rekishiknowledge/history_luxury/01/



コールは、日本をより深く理解し続け、いつか、日本とアメリカの関係におけるリーダーになりたいと思っています。息子の人生に良い影響を与えてくださったことに、改めて日本国外務省そして皆さんにお礼申し上げます。スティーヴン（翻訳：編集）

一昨年度に外務省「新日系人招聘」事業に参加した米国高校生（当時1年）の父親（Stephen Lambo氏）から近況報告

平成29年5月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



外務省・新日系人招聘プログラム

～米国高校生「私の一枚」～

米国日系人高校生から写真報告が届いた。日本文化を象徴する写真とそれを選んだ理由をここに紹介する。

(編集：抜粋和訳。関連記事：本誌8月号)



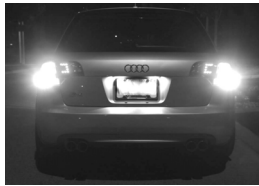
グレース・ハイドキ (カリフォルニア)



この写真は、アメリカと日本の文化の違いを現わしている。まずは、言語と文字の書き方の違い。それだけでなく日本の文化がある。アメリカでは人々が

並びながら目的の場所に向かうことはない。日本では急いで階段を上がる人は右側に、ゆっくり上がる人は左側にいる。アメリカでは、ほとんど見られない光景だ。またこの写真には日本の伝統的建物が鳥居の向こうに見える。障子のドアと屋根も見える。

カレオ・チャン (ワシントン)



来日の夜は空港から高速道路を通過して宿舎に向かった。隣りを走っていた車が

私たちの車の前に入ろうとした。私たちの運転手は、その車を前に入れてあげた。前に入った車は、「ありがとう」という意味でハザードランプを点灯させた。日本にいる間、その光景をよく見かけた。これはアメリカと違い素晴らしい。アメリカではラッキーと言うかのように、運転手が手を振りジェスチャーで相手に知らせる。日本はいつも人々が尊重し合う国ということがこの文化から分かった。

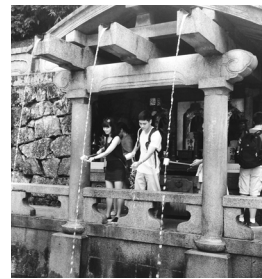
マリコ・デニス (イリノイ)



私はかつてこのようなことで楽しんだことは一度もない。まずは、日本の果物は高いことに驚かされた。この写真のパフェは約30ドルする。

でも、農家の人が手をかけて育てているからだとなり、周囲や環境への配慮について学んだ。本当の気遣い、シンプルさの中の美しさ、周囲への尊重に気づかせてくれた1枚だ。

カーター・ハーク (オハイオ)



日本文化は歴史の影響が社会や伝統に示されていた。この写真は日本の建築、文化、庶民の場所が歴史に結びつ

いていることを語っている。一方、アメリカではそういった例は少ない。神社仏閣や祈りの場所などは日本社会に息づいている。

ジョシュア・オリバー (オレゴン)



ホストファミリーのお風呂。この写真は、たくさんの中の例の1つで、日本とアメリカが同じ目的で使うものだったと思ったが、それは全く違っていった。日本とアメリカで違う文化、そして似ている文化を知ることができた素敵な機会だった。

世界万華鏡

“平成 28 年度新日系人招聘事業”

ホストファミリーの見た米国日系高校生

●東京都・中学2、小4家庭

普段、何も意識しないで生活している習慣ですが、受け入れた生徒の驚きの表情や事前に言われてきたのか、何でも実行しようとする彼の姿を見て、改めて日本の独特の習慣というのに私たちが気づかされました。

“日系人”ということで私たちが特に意識したことはありませんでしたが、彼はアメリカ人との違いとして、日本人は対応が親切で丁寧、やさしさを感じると言っていました。そのDNAはお祖母様から彼に引き継がれているということ意識して、さらに日本に興味をもってもらえたら嬉しいです。

彼との出会いは、わが子にもとても良い影響を与えてくれました。彼は将来への目標やしっかりとしたビジョンをもっています。そういう会話や姿に息子も刺激を受けたようです。

●東京都・中学2家庭

箸を使うのは難しいと思い、フォークとスプーンを準備していましたが、上手に箸を使いこなし、何でも食べてくれました。会話は、英語と日本語でスマホの翻訳を使いコミュニケーションを図ることができました。

米国でも梅干、たくわん、おにぎりを食べていると聞いて、日系ということ意識して生活されているのかしらと思いました。

そこで、都電、とげぬき地蔵、こけし制作など米国にはないところにお連れすると、たくさんの違いを見つけてくれたようです。

●東京都・高校1、小2家庭

とても社交的で明るく素敵な子で、家族にすぐにとけこみました。日本食や日本文化に積極的かつ楽しんで挑戦してくれました。お会いするまでは全てのことに心配でしたが、受け入れてみると互いに理解し合い楽しく過ごすことができました。

日系人だからなのかは分かりませんが、とても日本に興味をもち、何事にも前向きに体験する姿勢にこちらも嬉しくなりました。また、自分のルーツにとっても関心があり、家族を大切にされていました。わが家の子どもたちにも素晴らしい体験となり、英語で話す娘、カタコトで遊んでもらう息子と、いつもは見られない姿を見られました。

●東京都・大学生、専門学校生家庭

性格的には遠慮がちで、相手の気持

ちをくむところなど、日本人の気質も兼ね備えていると思いました。米国のお母様のご心配のようで、ときどきスマホで連絡をされていたようです。今後家族同士で連絡をとり合いたいと思います。

●神奈川県・高校1、中1、小2家庭

夫婦ともどもホームステイをしたことはありますが、受け入れははじめてで、とても良い経験でした。

食事はアジア系の味や日本の味にも慣れてるようで、何でも食べてくれました。色々な文化を取り入れている家庭に育ち、その中でも日本に興味をもち、日本語を勉強しているそうで、日本人としてはとても嬉しいです。

我が家の小・中の子どもたちは恥ずかしがり屋であまり話ができなかったようですが、オセロや福笑い、かるたなどで交流できて良かったです。

平成 28 年 8 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703

発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



外務省・新日系人招聘プログラム

～5名の米国高校生来日～

米国日系人社会には、日系人と非日系人双方の祖父母もしくは親をもつ子女や、近年では米国人と婚姻等により米国永住者となった「新一世」と呼ばれる親をもつ子女等、さまざまな背景の日系米国人青年がいる。外務省では彼らを「新日系人」と称し、日本語や日本文化の認識・継承を支援するために日本での研修の機会を提供しており、IFAはその実施運営をしている。

平成21年度に開始し第7回目の今回、在米日本国大使館や各州の総領事館で応募者を募り、選抜された5名の米国高校生が、6月26日の米国サンフランシスコでの事前研修の翌日に来日し7月7日まで12日間滞在した。

高校での一日体験入学、都内視察、京都訪問などを行い、日本の社会、歴史、文化、政治・経済等さまざまな側面から日本と日本人について学んだ。東京およびその近郊での2泊3日のホー

ムステイでは、日本の普段の生活も経験した。帰国前日には外務省石月英雄北米一課長を表敬訪問し、日々素晴らしい発見の連続だったこと、今後、日系人であることをと友人に話し、日本の大使館や総領事館の行事などにも積極的に参加したいと語っていた。

以下、高校生たちが見た日本についての感想の一部を紹介する。

カロリン・フーパー (メリーランド)

小さなこと、たとえばちょっとしたおじぎなどを大切にしている。小さな動作だけでも効果的に相手に気持ちを伝えている。すべてが素晴らしく、私の第2の故郷になったと思う。日本はまた私に思いやりをもち、想像力をもち、忍耐強く、優しく、人を尊敬する人になるようにという思いを抱かせた。

マイケル・イー (ペンシルバニア)

日本の高校の先生にはいろいろな仕事があるのだと驚いた。

生まれてからこけしや折り鶴、太鼓や日本の歌などに親しんできたけれど、日本に来て、そうしたあらゆる文化が日本人の日々の生活に深く入り込んでいるのだとわかった。日本食もいろいろと味わうことができ、その素晴らしさも感じた。

マリコ・ルークス (カリフォルニア)

高校の授業に参加して、数学は難しいと思った。新しいダンスの授業や家

庭科など、アメリカにはない科目も面白かった。日系の者として、2020年の東京オリンピックにも何らかの形で関わっていきたい。



高校体験で、部活動(剣道)に参加

モーガン・オメ (カリフォルニア)

日本国外務省を訪問できて光栄でした。いつかそこで働けたらと思った。電車でバックを自分の前にかかえて人に当たらないようにすることや「いただきます」と食事の前にも言うことなど、日本人は人や場所、そして物にも価値と感謝の気持ちをもっており、その感覚をアメリカに持ち帰りたい。

コールマン・ランボ (オレゴン)

京都では日本の歴史にでてる場所や建物などを訪ねることができた。驚いたのは仏教の寺と神道の神社が隣り合わせに建てられていることだ。日本は他の宗教に対し寛容で、それは日本人の他を尊敬するという価値観からくると思った。日本も他国と同様にかつて戦争したこともあったが、この尊敬と平和の共存が今の日本にはある。

(日本語訳: 編集)

世界万華鏡

国際基督教大学4年

くさかべ 日下部

ようすけ 洋亮

フィンランドの学生支援制度

「福祉国家フィンランドの実態を知る」それが、フィンランド留学当初の最も基本的な動機でした。

1年間の留学生生活を振り返り、フィンランド社会について、主にその高福祉社会としての側面について述べたいと思います。その一例として、学生への支援制度を紹介します。

なぜなら、充実した学生支援制度を通して、フィンランド社会のあり方とその根底にあるフィンランド人の考え方が見えてくるからです。

フィンランドの奨学金は“study grant”(学習奨励金)と呼ばれ、フィンランド市民権をもつ大学生であれば返済義務のない奨学金を月額最大335ユーロ(日本円で約45,000円)受け取ることができます。金額は生活形態や両親の収入などにより異なり、より支援を必要としている学生に多くの支援が提供されるよう設計されています。study grantは学期中しか支給されず、長期休暇分や生活費の不足分はアルバイトで賄う学生が大半でした。加えて、賃貸で一人暮らしをしている学生であれば家賃の80%まで公的援助を受けることができます。また、奨学金は税金で賄われているため親の世代が間接的

に負担していることとなりますが、累進制の税を通して政府が徴収し支給しているため、私費で各家庭が負担するより学生間の公平性が保たれます。

以上のような制度の背景には、若者の自立支援を社会全体で担うべきであるという通念が存在するようです。授業の一環でフィンランド人の大学生を4人集め、グループディスカッションの場をもち意識調査を行いました。学生支援制度は学業に専念するためのものである以上に、20代前後の若者が自立した大人になるための準備段階として相応しい環境を提供するための制度であるという共通理解が見られました。また、18歳を超えれば養育の法的義務はないこともそうした通念の現れでしょう。ここで言う自立支援とは、経済面を含めて自分の生活を管理し、家族から独立する準備を促すことを指します。親元を離れて暮らすことで、経済的だけでなく精神的にも自立せざるを得ないのです。さらには、自分たちが学生のときに多くの支援を受けた分、納税者の立場になったときは喜んで次世代の教育のために税を納める、という意見もありました。

フィンランドの学生支援制度には、

各個人が生まれた環境に左右されず独立した個人へと自由に発達する機会を平等に提供するため、市民が高い税金を通して社会全体に貢献する、いわゆる social democracy (社会民主主義)のあり方が現れていると感じました。

また、高等教育まで学費が無料であることから、国全体として教育を重視しようという共通認識があると言えます。翻って日本の教育事情を見ると、かなり様子が異なっているようです。例えば、教育への公的支出に関して日本はOECD諸国中最下位です(2012年時点)、奨学金ローンの返済問題など、教育格差につき日々報道されています。そうした現実を前に、留学という機会を与えられた私がいかに幸せな環境にいるか痛感するとともに、留学で学んだこと、感じたことを無駄にせず、これまで以上に誠実に自分の意志に従って、これからの人生の選択をしてゆくべきであると感じています。

平成27年7月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷株式会社



平成26年度日本研修

—新日系人招聘プログラム—

現在、在米日系人社会においては、日系人と非日系人双方の祖先をもつ子女で、日本人米国永住者（いわゆる新一世）の親をもつ子女、すなわち、日本人の血を引く、新たな時代の日系人の青少年に対する日本語教育・日本文化継承の必要性が増大している。

日本国外務省では、こうした状況を支援するために平成21年度より「新日系人招聘プログラム」を発足させ、米国の日系人青少年の日本人的アイデンティティ（帰属意識）を高め、日本への思いをより良いものにし、さらには、将来、日本と米国のあらゆる分野における架け橋として活躍する人材になってもらうために、日本を知ってもらう研修を行っている。

IFAは、その初回より企画入札により本プログラムを実施しており、今年で6回目となる。

日系人の歴史は19世紀末、ハワイへの移民を皮切りにその後多くの日本人が海外に移住し、現在、世界中に約

260万人、その内、米国には約100万人がいるとも言われている。

●実施概要

実施場所：米国および日本国内
 時 期：平成26年6月27日（金）～7月8日（火）12日間
 対 象 者：米国内の高校生（5名）

参加者の選抜は、全米50州を管轄する日本国在外公館（大使館と総領事館）で行い、応募者の中から在外公館ならびに外務省の選考を経て、高校生男子3名・女子2名、計5名が選ばれた。

実施内容：

- ・米国在サンフランシスコ総領事館にてオリエンテーション
- ・外務省訪問
- ・滞日ブリーフィング、日本理解講座
- ・高校一日体験入学
- ・ホームステイ（2泊3日）
- ・都内視察
- ・地方視察（京都等 2泊3日）
- ・日本文化体験
- ・先端技術見学

●参加生徒からのメッセージ

◇半分日本人、半分イタリア人で主に白人社会に育ち、日本とは、名前が日本人であるのと時折、母や祖母から聞く話しか接点はありませんでした。今回の研修は、私が生まれながらに継承しているものをより気づか

- せてくれると思います。
- ◇高校で5年間、日本語を勉強しています。難しいですが上手になりたいし、頑張っています。アメリカの外に行ったことがありません。
- ◇ハワイに住み4人兄弟の一番下です。野球とチェロと水泳が好きです。生徒会に所属し、聖歌隊でもあります。
- ◇日本で生まれアメリカで育ち、10歳のときに1度しか日本に戻っていません。今回、日本で自分の中の日本の遺産について学びたいです。祖父はいつも日本語で私に話しかけます。理解できますが話すことがうまくできません。祖母は日本食を時々作ってくれます。とてもおいしいです。
- ◇趣味はスポーツを見ることと陸上やボーリングをすることです。私の日本語はまあまあです。

（抜粋、編集訳）

第6回中学生交流プログラム

インドネシアへ派遣団員募集開始

■実施期間：

平成26年10月5日～12日7泊8日

■募集人数：日本の中学生7名

■参加費：無料

※東日本大震災の被災者は、面接旅費等経費も本プログラムで負担

■応募：7月15日までに所定応募用紙をIFAに郵送。書類審査、面接審査を経て団員決定

■申込書および問合せ先：

URL：<http://www.ifa-japan.org>

■E-mail：staff@ifa-japan.org

世界万華鏡

エッセイスト さおとめ みつひろ
 五月女 光弘

世界の中の日本の評価

●世界の平和で安全な国ランキング

《英国エコノミスト誌調査（2008年）》

1. アイスランド、2. デンマーク、3. ノルウェー、4. ニュージーランド、5. 日本、6. アイルランド、7. ポルトガル、8. フィンランド、9. ルクセンブルク、10. オーストリア、以下カナダ、スイス、等。

《豪州経済平和研究所調査（2011年）》

1. アイスランド、2. ニュージーランド、3. 日本、4. デンマーク、5. チェコ、6. オーストリア、7. フィンランド、8. カナダ、9. ノルウェー、10. スロベニア

（注）日本以外は欧米の人口の少ない国。

1億以上の人口大国は日本のみ。

上位国で欧米以外は日本のみ。

●世界で好感度の高い国ランキング

（2010～2013年調査）

《台湾世論調査機関》 1. 日本（52%）、2. 米国（8%）、3. スイス（4%）

《トルコ世論調査》 1. 日本（25%）、2. グルジア（12%）、3. イタリア（11%）、4. ドイツ（9%）、5. パレスチナ（9%）、6. 米国（8%）

《米国Gallup Poll調査》 1. カナダ、2. 豪州、3. 英国、4. ドイツ、5. 日本

《米国Pew Research調査》 1. カナダ、2. 英国、3. 日本、4. ドイツ

《香港大学調査》 1. 日本、2. シンガポール、3. 台湾、4. 豪州、5. カナダ

《英国BBC放送調査》 1. ドイツ、2. カナダ、3. 英国、4. 日本、5. フランス

●東南アジア諸国連合（アセアン注）

の日本の評価（2014年3月）

《最も信頼できる国》

1. 日本（33%）、2. 米国（16%）、3. 英国（6%）、4. 豪州（5%）、5. 中国（5%）6. NZ（4%）

以下、ロシア、ドイツ、韓国等。

※日本を高く評価する理由：

- ① 科学技術の発達した国
- ② 経済力の強い国
- ③ 自然の美しい国
- ④ 豊かな文化を有する国

（注）アセアンとは、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの10ヵ国。

●なぜ、日本は国際貢献（困っている人々を助ける）をすべきなのか。

- ・過去に支援を受けた恩義を忘れずに恩返し。

- ・沢山の友人（日本に好感を持つ国々）を作るため。
- ・困った人を助けるときは理屈なしに。
- ・ノブレス・オブリージュ（仏:noblesse oblige, 英:noble obligation）。つまり、高貴な人・幸せな人の、弱者・困窮者を助ける当然の義務。

●教訓（国際貢献の心がけ）

- ・我以外皆我師（他人は全て自分の先生である。謙虚に助言を受け入れる）[吉川英治]
- ・隋所に主たれ（苦しい時も何時でも何処でも全力で）[臨濟義玄禪師]
- ・百聞は一見に如かず[漢書・趙充国伝]
- ・百見は一行に如かず [大野耐一元トヨタ副社長]
- ・百回聞いても一回見た人にはかなわない。百回見ても一回行動した人にはかなわない

（講義資料より）

平成26年6月17日発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ502
 発行責任者：及川 伊佐子
 編集 集：事務局 03(3582)3021
 印刷 刷：音和堂印刷株式会社



IFA、招聘事業の実施

ASEAN 事務局訪日研修

CLMV若手外交官研修 (第12回)

ASEAN (東南アジア諸国連合)は、東南アジア地域の10ヶ国(ブルネイ・カンボジア・インドネシア・ラオス・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイ・ベトナム)からなる国を超えた地域協力機構。事務局はインドネシアにあり、今般、CLMV(上記□□)若手外交官4名への訪日研修をIFAが実施した。

日本の政治・経済・社会・文化・歴史等とその制度につき関係者と意見交換等を行うとともに、研修を通し日本への理解と認識を深めることが目的。

平成25年6月10日～6月15日の6日間、東京では、外務省、JICA(独立行政法人国際協力機構)、日本アセアンセンター、ASEAN東京委員長を表敬訪問し、精力的に意見交換を行った。

都内港区立麻布小学校の見学も行い、教育の大切さを実感し、児童との交流

も果たした。

京都では、歴史的建造物の見学や着物の着付、茶道の体験も行ったが、一番の思い出は一般家庭のホームビジットとなった。家の様子も拝見し、夕食を一緒に食べたあとは、近所のスーパーマーケットでの買い物もした。

将来、必ずや日本に仕事で再び来たいと話しながら帰国の途についた。



新日系人招聘

米国高校生訪日研修 (第5回)

米国日系人社会を支援する目的で5年目となる「新日系人招聘」事業を今年もIFAが担当した。非日系人を父母や祖先にもつ子女、戦後に渡米した「新一世」と言われる日本人米国永住の親をもつ子女に対して、日本語の教育、日本文化の認識および継承を支援するもの。

今回は、在米の各日本国総領事館から選ばれた5名の大変元気な高校生たちが平成25年6月30日から7月9日までの10日間、日本に滞在した。



プログラムの中で、「高校一日体験入学」、「ホームステイ」、「京都見学」は参加者にとって大変興味のある魅力的な内容となった。

神奈川県横須賀市立横須賀総合高等学校には、朝6時に東京の宿舎を出発し8時半に登校。参加者1名ずつに付いてくれたパディ(生徒)と一緒に「国語」、「歴史」、「保健」など6科目の授業に参加し、昼食は学校の食堂で生徒と一緒に楽しくいただいた。放課後はクラブ活動に参加。剣道部では、礼儀作法から基礎練習、そして3本勝負の試合まで、汗だくになりながら頑張っていた。

ホームステイの家族との対面式では各自が準備してきたパワーポイントを駆使し、自分の家族、学校生活等を素晴らしいで紹介した。

帰国前のレポートでは、全員が「家族の一員として迎えてくださった」と喜びを語り、「日本の主婦の方の生活がよくわかった」、「これからは、自分が日系アメリカ人であることを誇りに思う」と述べ、充実した研修になったことが伺われた。

世界万華鏡

日本語教育 ながほ すみお 永保澄雄 シリーズ③ ノルウェーのヘムスターさん(その3)

ヘムスターさんはルーテル派の人であったが、若いときからカソリックのメディテーション(瞑想)に関心をもち、日本へ来るまでの10年近くそれを続けていた。

そのことはあとで知ったのだが、それで仏教の中でも坐禅を行とする禅宗をまず研究する気になったらしい。私は秘書の仕事として臨済宗の朝比奈宗源老師にお会いする交渉をした。老師はお忙しい方だったのでまず我々が鎌倉の円覚寺までお迎えにあがり、上京される車中でお話を伺うことにした。

当日、お寺には少し早く行き、玄関わきの侍者寮と呼ぶ小部屋で老師をお待ちした。

その日ヘムスターさんはいつもより気負いが見られた。仏教とはじめて対決する、つまり本来の仕事が緒(ちょ)につくのである。

やがて老師が見えた。そして静かに着座された。お坐到になられるとヘムスターさんに「おいくつになられる」とお尋ねになられた。「28になります」。「そうですか。体に気をつけてしっかりおやりなさい」とおっしゃった。

ヘムスターさんは「はい」と自然に答えていたのである。この会見は、ヘ

ムスターさんにとっては大変ショックなことだったらしい。そのとき彼が何を考えたのかは分からないが、京都へ帰ると、同じ臨済宗の師家原田祖岳老師について坐禅を始めたのである。そのあと私は東京へ帰ってしまったので詳しいことは知らないが、月に何回か車で福井の小浜に通い、老師の寺である発心寺で参禅したそうである。ヘムスターさんは自分でも多年メディテーションをやっている所以他の人より早く見性(けんしょう)したとのことであった。見性とは臨済宗の坐禅の関門で、岩波の仏教辞典には、見性とは人間の本来そなわる根源的な本性を徹見することとある。

ただ曹洞宗の開祖道元禪師はこれを認めていない。

ヘムスターさんは見性したとき小踊りして喜んだそうである。そして老師にこう言った。「これで私の信仰も前より深まりました。」老師はこれを是とされた。その後のヘムスターさんのことは知らない。このことが誤って伝えられ、仏教に改宗したと思われた恐れもある。彼が最後に書いた本国への報告書には僧侶への働きかけは困難であり禅宗へのそれは絶望的であるとあ

たそうであるが、多分それが本国へ帰された本当の理由だったのだろう。彼の代りにすぐデンマーク人の宣教師が派遣されて来たが、はかばかしい成果は得られなかったらしい。道友会は閉鎖され、教会は神戸に撤退して、そこでは一般の布教に当たることになったそうである。

ヘムスターさんと暮らしたのは1年足らずであったが、今考えると彼が28の時である。彼は毎朝早く起き、決まった時間に冥想する。感謝して食事をする。人の悪口は言わない。誰とでも同じように接する。いろいろあるが気がつくとも私も彼と同じように暮らしていた。

それにしても彼は祈りの時間に私が坐禅するのをなぜ許したのだろう。きっとそれは彼が見ていた世界は私がそれまで見てきた世界よりずっと広大でずっと深かったのだろうと私は今にして思うのである。

平成25年7月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷刷



米国・日系高校生の見た日本

— 外務省・新日系人招聘プログラム —

IFA が実施担当した標記事業により、米国の5州から高校生5名が7月1日に来日し、2週間の滞日理解の日程を終えて10日に帰国した。高校生たちが見た日本についての感想の一部を紹介する。(関連記事、本誌2月号)



ベイリー・ブーレ (ネバダ)

生まれてはじめて着物を着て茶道を経験できたのが素晴らしかった。また、日本の食事は世界一だと確信した。ホームステイはとても素晴らしく、日本の家はとても興味深かった。西洋の影響を確実に受けていると感じた。日本の家庭で過ごすことができ、日本人は案外、ゆったりと楽しく過ごしていると思った。学校訪問での剣道は何と言ってもすごかった。魅せられてしまった。バスケットボールも一緒にできて本当に楽しく、日本の学校がどんなものかを感じることができた。

キャスリン・カニンガム (ワシントン)

祖父母を知らない日系アメリカ人の私には何か心の中に穴があるような思いがあった。日系3世の母からは、戦後、一切日本のことは聞かされていなかった。この日本への旅はそのパズルのような私自身を知る旅となった。(中略)日にちを追うごとに、多くのことがとても身近に感じられるようになった。特にホストファミリーと一緒に夕食を食べていると、その食事は愛情の表れに思えた。ホストのお母さんはアメリカのママが作るように卵とトマト、アボカドの朝食を作ってくれた。そして分かったのだ。文化というものはマジックのように取り出すものではなく、育てるものなのだ。そう思うと、私の日本文化を知る旅はまさに始まったのだ。私は誰なのかを知る重要な旅なのだ気づいた。私が成長していい大人になったとき、日本文化に真の理解と感謝をもったときに私の世界観も変わっていくのだと思う。

マシュー・ピーターズ (ミシガン)

本当に人生に2度とない貴重な体験だった。このプログラムに参加できたことを誇りに思う。自分自身が日系アメリカ人でありそのルーツを知ることができた。来る前は、小さくて街には人がいっぱいいて慌ただしいところだろうと思っていたが、実際にはもっと大きく感じた。ただ、朝と夕方、仕事に向かう時間と帰る時間はさすがに忙し

そうだった。京都では少しゆったりと過ごせた。お茶を楽しむこともできたが、(着物を着たので帯がきつくて)息がでなかった。

エリザベス・クラタ (コロラド)

箸をつかえるようになり、味噌汁を食べるたびに日本の皆さんが朝食に食べているだろうと思い、日本につながっていると感じる。日本に来る前は、芸者や侍、ロボットといった漠然とした思いがあり、日本は単に外国だった。それが今回の訪問でとても奥深い伝統文化があり、同時に現代文化があると知った。そしてこの国が大好きになった。今、自分を日系アメリカ人と自ら名乗り、そして行動することができるようになった。

レベッカ・ヤマシロ (ハワイ)

日本の高校の英語の授業はとても進んでいると思った。たくさんのことを学んでいて英語の知識も多いと思う。ただ、それを正しく使うことができないだけだと思った。授業時間がとても長く感じた。この滞在で日本の伝統的な面とより近代的な文化の両面に触れることができた。日本人は最初は物静かで控えめだが、一度知り合うとアメリカ人と同じだとも思った。学校訪問のときのバディー(友人)やホストファミリーの家族とはこれからも連絡を取り合っていきたい。

(日本語訳：編集)

世界万華鏡

韓国

さいじゆんしゆく
崔順淑

江角ヤス校長先生の思い出

1938年4月、入学式を3日後控え、家族や親族の見送りを受けながら、今は故人になった、級友Kさんと二人で希望に満ちあふれ、なつかしい故郷を後にして船に乗った。14歳だった。麗水・下関・門司(北九州市)三港口を経て、ようやく翌日の午後8時に希望に燃える長崎駅に着いた。荷物(寝具を入れた柳行李)は2時間後に荷物列車で到着するとの駅員の話だった。仕方なく2時間を待とうとすると、駅員が言うには、明日、学校まで配達するからと、行く道筋等を親切に教えてくれながら、「あれが最後の電車かもしれないので急ぎなさい」と。二人は生まれてはじめての電車に乗り終点で降りたのが10時を過ぎていた。辺りは暗闇となり、道は三つに分かれていて、どう行ってよいのやら心配な顔を見合わせるしかできなかった。

その瞬間、駅の方向からにわかにかたかた、かたかた自転車の急ぐ音が響き、振り向くと誰かが自転車から下りて私たちの前まで近づいた。停留場の合間から流れる灯火でよくよく見つめると、少し前に駅で見た青年に違いなかった。

「僕がご案内します」と言うのだ

た。あっと思うに、その青年は先ほどの駅で荷物を待つ間、駅員と私たちの対話を身動きもせず聞き入っていたのだ。スプリングコートで楕円形の章のついた帽子をかぶり、横には籠を乗せた自転車があって、二十前後の学生らしく、印象も優しかった。私たち二人が気の毒に見えたらしく、電車の後を追って見逃すまいと一生懸命にこいできたのだった。二人は奇跡でも起こった思いだったが、何時にあったので、半信半疑ながら、仕方なくお世話にあがるよりなく、後について行った。

星の光も見えない夜だった。家野町(文教町)名の通り、人家は所々に2、3軒あるだけで、ようやくたどり着いたが、校舎にも灯りがあるはずもなく、塀の終わりまで行くと、目の前に小さな2階建が見えた。その青年が近づいて「失礼します」、「ご免なさい」と戸を叩くと、しばらくして中から優しい中年位のシスターさんが出られ、青年のお話を聞かれて、青年の身分を問うのだったが、青年は、「いいです」と遠慮して答えなかった。それでシスターさんが中からバナナ一房を持ってきて青年にやると、「これはいただきます」と言って私たちのお礼の挨拶を受ける

間もなく去って行った。

シスターさんは、「きっと神様が天使を寄越してくださったのよ」と言いながら二人の寝具まで用意くださり、他郷での安堵の一夜を明かした。

その翌日、そのシスター様が、長崎純心学園の江角校長先生とわかった。韓日国交正常化の後、某新聞の長崎版に「二人の娘を案内してくださった天使はどこに」と記事を載せてもらったが、反応はなく、その青年も今頃、健在であれば90代に入っておられるのではないかと、黄昏ではあるが、このきっかけにお礼でも言いたい思いが湧きあがる。(つづく)



平成24年7月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社



ホストファミリー募集

—新日系人招聘プログラム—

現在、在米日系人社会においては、日系人と非日系人双方の祖先をもつ子女、日本人米国永住者の親をもつ子女（いわゆる「新日系人」）に対する日本語教育・日本文化継承の必要性が増大している。

日本国外務省では、こうした状況を支援するために平成21年度より「新日系人招聘プログラム」を発足させ、米国の日系人青少年の日本的アイデンティティ（帰属意識）を高め、日本への思いをより良いものにし、さらには、将来、日本と米国のあらゆる分野における架け橋として活躍する人材になってもらうために、新日系人を日本に引き研修を行っている。

IFAは、平成21年3月の第1回プログラムと平成22年7月の第2回プログラムを担当し、今般、平成24年3月実施予定の第3回プログラムを実施する運びとなった。

ここに第3回プログラム（予定）を紹介する。



第3回プログラム実施概要

実施場所：米国および日本国内

時期：平成24年3月9日（金）
～3月20日（火）12日間

対象者：米国内の高校生（5名）

日程案：

3/9（金）

午前 全米よりサンフランシスコ着

午後 在サンフランシスコ日本国総領事館にてオリエンテーション

3/10（土）

午前 サンフランシスコ発、東京へ

3/11（日）

夕刻 成田空港着後、都内へ

3/12（月）

滞日・日本理解オリエンテーション

3/13（火）

）東京・京都市内視察、学校訪問

3/16（金）

夕刻 ホストファミリーと対面、ホームステイ

3/17（土）

終日 ホストファミリーとともに（東京および近郊）

3/18（日）

午後 宿泊先集合

3/19（月）

外務省訪問ほか、報告書作成

3/20（火）

午前 帰国準備

午後 東京発、成田空港、帰国へ



第2回プログラム参加者（平成22年7月）



日系人の歴史は19世紀末、ハワイへの移民を皮切りにその後多くの日本人が海外に移住し、現在、世界中に約260万人、その内、米国には約100万人がいるとも言われている。

全米50州を管轄する日本国在外公館（大使館と総領事館）で募集を行い、応募者の中から在外公館ならびに外務省の選考を経て高校1年と2年の男子2名・女子3名、計5名が選ばれた。

今回来日する5名の日系人が、日本人の普段の生活の中で、ともに暮らし、語り合うことにより、日本文化や習慣を理解するとともに、受け入れに関係する日本人たちが、日系人の歴史や文化、現状を知りたいと願って、IFAはホストファミリーを募集している。

IFA（社団法人国際フレンドシップ協会）

担当：草場

電話：03-3582-3021

世界万華鏡

スロバキアの生徒を受け入れて（その2）

ホストファミリー 岩井とも子

●日本大好き留学生（前号よりつづき）

ヘンリエタが帰国前には東京の外務省で全国に留学していた47名の生徒の報告会が開かれ、その報告会に参加させていただきました。我が子かわいさからか、一番日本語もうまく、上手に報告できていたように思います。最後は将来日本で働きたいという夢を叶えるため、再来日することを約束して涙ながらに別れました。

●ホストファミリーを経験して

留学生がホームステイしている間、本当に忙しくて体調を崩したりもしましたが、おばあちゃんは毎日留学生の帰りを玄関で迎えてくれたり、私が仕事で帰りが遅くなった時は娘が食事の世話をしてくれたり、お父さんは観光の段取りをしてくれたり家族みんなで充実した日々を送ることができました。ただ残念なのはシャイな息子は、最後まで留学生が日本語で話しかけてくれているのに話ができませんでした。

今回の掲載で彼女の写真を載せてもいいかとメールを送ったところ、現在彼女は大学の日本学科の合格待ちであ

ること、地震のことをとても心配していることを伝えてくれました。こんなにも日本を大好きでいてくれる彼女に恥じないような日本人でいなければならないと思いました。皆さんもぜひ機会があればホストファミリーになってみませんか。日本を見直す良い機会になりますよ。

●ヘンリエタの日本の感想



研修中の発表の様子。中央がヘンリエタ

最初に日本の地に降り立った時、どんな経験をするのか、本で読んでいたのと同じなのか、私には全く想像がつかなかった。結果、以前に学んでいたことや、本やインターネットのどこにもなかった日本を自分の目で直に見ることができた。大変興味深く、有意義なものとなった今回の滞在の中で、私はこれ以上ないぐらい素晴らしいホストファミリーと出会った。できる限り

多くの日本文化に触れさせてくれ、おかげで思っていたよりもはるかにたくさん経験することができた。

日本の家族と日常生活を体験するとともに、日本の学校生活も見ることができた。部活動も含め、スロバキアに比べて学校で過ごす時間が長く、驚いた。生徒はみな親しみやすく親切で、ときどき理解できないことはあってもたくさんの友達が出来た。

日本について、驚いたことはたくさんあった。日本人はトイレでは違う靴を履く。誰かがくしゃみしても何も言わない。フライトアテンダントは机をふかせてもらってお礼を言う。そうした違いがあっても、私はそれをおもしろいと思ひ、そしてその日本の文化に驚くほど簡単に馴染むことができた。

日本は私が必ずいつか帰って来たいと思う国であり、この機会を与えてもらったことに感謝したい。（編集訳）

平成24年1月17日発行
社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事業部 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社